

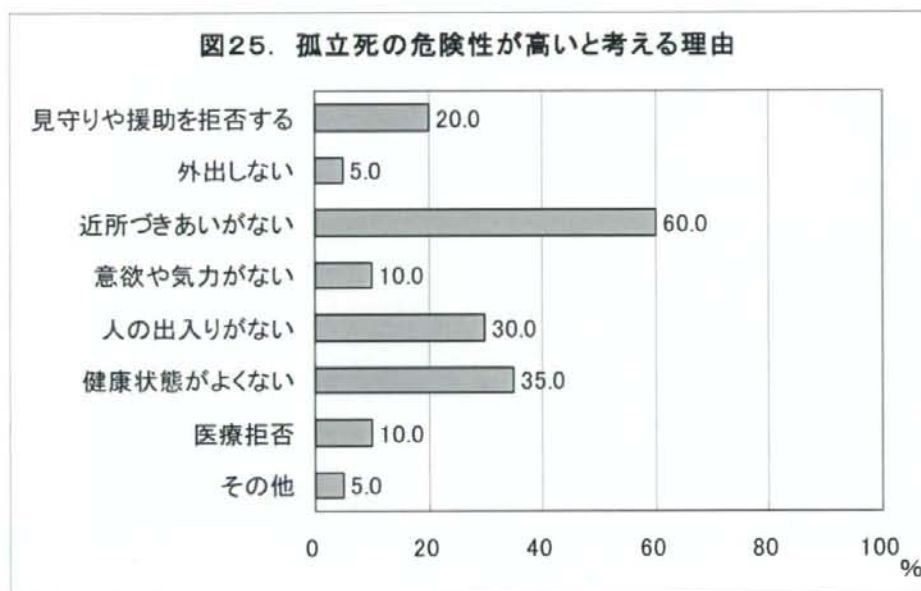
②理由

①において、孤立死の危険性が高いと思った理由として表 22、図 25 をみると、健康状態がよくないことよりも近所付き合いがないことが孤立死のハイリスクと認識されていた。

表22. 孤立死の危険性が高いと考える理由(複数回答)

項目	人数	%
見守りや援助を拒否する	4	20.0
外出しない	1	5.0
近所づきあいがない	12	60.0
意欲や気力ががない	2	10.0
人の出入りががない	6	30.0
健康状態がよくない	7	35.0
医療拒否	2	10.0
その他	1	5.0

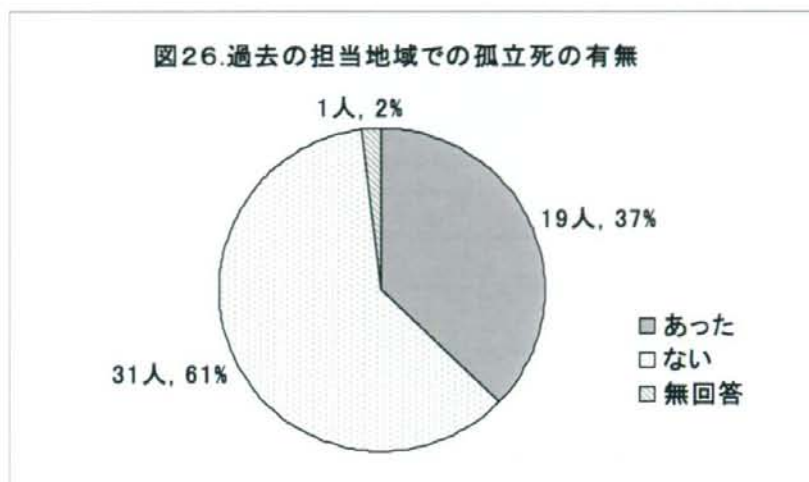
図25. 孤立死の危険性が高いと考える理由



(3)過去の担当地域での孤立死の有無

①有無

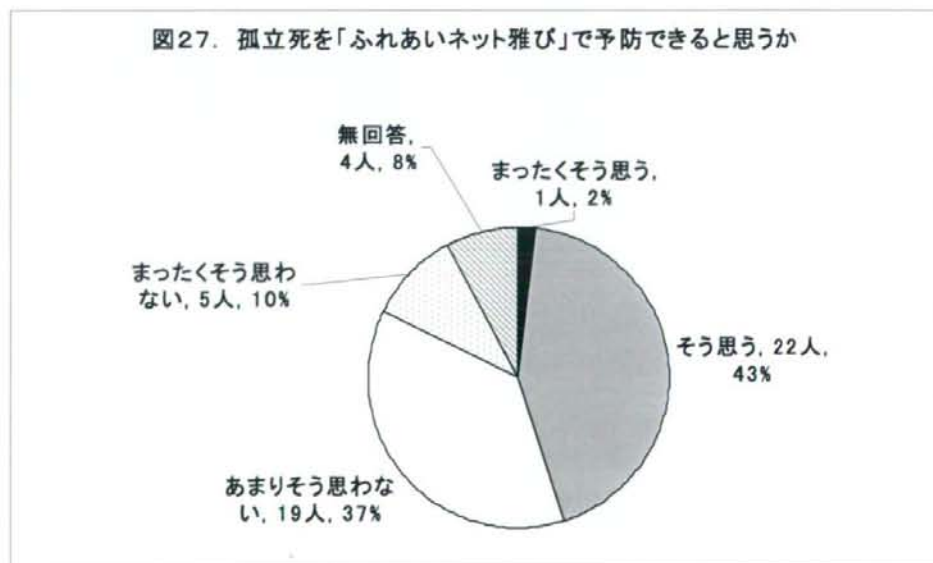
「過去に担当地域で孤立死があったか」という問いに対し、「あった」と答えたものが19人(37%)、「ない」と答えたものが31人(61%)で、4割弱が孤立死があったと回答している。(図26)



(4)孤立死のふれあいネット雅びでの予防の可能性の有無

②様子

「孤立死を『ふれあいネット雅び』で防げるか」という問いに対し、「まったくそう思う」と答えたものが1人(2%)、「そう思う」と答えたものが22人(43%)で、約半数が見守りで防げると思っている。(図27)。



(5) 孤立死を防ぐための方法の提案や意見

① 家族や本人ができること

家族・親戚との連絡が最も多かった（表 23）。

表 23. 孤立死を防ぐため家族や本人が出来ること

内容	人数	%
家族・親戚の訪問や電話等、密な連絡	11	21.6
家族の密な連絡や、民生委員・行政・近所への相談や依頼	2	3.9
民生委員・行政・近所への相談や依頼	2	3.9
近所付き合いや積極的な行事・会への参加	1	2.0
自分から「元気である」「助けて」等のわかるサインを出す	1	2.0
個人情報保護を主張しすぎない、プライバシー範囲を明確にする	1	2.0
無回答	33	64.7
合計	51	100

② 地域でできること

身近な隣近所等の注意等よりも、見守り活動が多かった（表 24）。

表 24. 孤立死を防ぐため地域で出来ること

内容	人数	%
見守り活動	7	13.7
隣近所の人や地域住民の注意・声掛け・協力	6	11.8
福祉委員や自治会、近隣との協力	3	5.9
地域活動への参加を促す	1	2.0
本人の生活感や動きを視る	1	2.0
現状に限界がある	1	2.0
無回答	32	62.7
合計	51	100

③行政および専門機関に求める役割

IT等活用したシステムや機器の構築・提供を求める声の中では多かった（表25）。

表25. 孤立死を防ぐため行政および専門機関に求める役割

内容	人数	%
必要な個人情報の公開・共有	2	3.9
行政や専門機関によるアンケート・聞き取り調査や情報提供（入院、入所状況等）	6	11.8
IT等活用したシステムや機器の構築・提供	7	13.7
ボランティア活動を広める、相談しやすい環境づくり	1	2.0
その他	2	3.9
無回答	33	64.7
合計	51	100

6) 保健福祉サービスについての意見

表26. 保健福祉サービスについての意見

- 見守り対象以外でも独居生活者が多く観られるが、突然何かの事故で倒れたときには誰に知らせるか
・わからない。個人情報の守秘義務の問題で、前もって連絡先を聞きにくい。独居生活者には、市役所へ連絡先を届け出る事の義務付けがあればと思う。これも福祉事業の一部と思う。
- 福祉に携わる方は精神的な過重があると思うが、互いの悩みを話し合っ解消するよう頑張っ欲しい。
- 地域包括支援室、社協、ケースワーカー、ケアマネ、保健師等の協力が今後必要
- 地域福祉委員活動にも限界がある。委員を増やせば解決できる問題でもなく、よい方法がないかと考
えるところである。昔より仕事の量、内容とも非常に多く、委員の負担も大きい。昔のように近所との交
流がもっ持てるように、近隣で助け合える社会になればと思う。行政や社会のサービスを利用するの
ではなく、皆で助け合える社会に行きたいと思う。
- 地域福祉委員会の活動には限界があり、特に寝たきりに近い見守り対象者には、行政の関わりを深め
て欲しい。
- 地域に75歳位の年齢の方が多く住んでおられ、これからの問題ではないかと思う。いざという時は市
と連絡を密にしなければと思う。
- 地域活動の実態と理解を知ること、その上に立っ力強い指導性発揮をお願いしたく考えます。
- 携わり一年余り。意見を書くより自分自身を向上させてからのことで店
- 人権問題、守秘義務、個人情報保護などが地域福祉活動で生命・身体
の保護を第一義に考え推進した場合、行政等は双方信頼を構築して欲しいと言われ、二律背反の中で、共
沸するのが実際は難しい
・時が多々ある。何分にも我々はスペシャリストでなく、不可抗力、無知、過失的な要素もあり、相手
によってはいつかは訴訟問題にぶつかるときがあるとも考える。我々の活動が賠償問題に発展するこ
とが無いとも言えず、従っ我々の活動のバックに保険対応を考慮して貰いたい(社協等でも可)
- 情報提供をしっかりとしてもらえたら地域のスタッフも動きやすくなる。
- 個人情報保護法施行後、行政等、横の連絡等が悪くなったと思う。個人で情報収集は難しい(生活保
護者等の確認)調査報告書の基準資料のみとせず、現実の防止活動を望む。
- 元気な独居老人もいる。掃除の出来る方は掃除も運動の一つであり、何から何まで手を貸すのは問
題。
- 近年、限界集落での現状が報じられているが、そこでは福祉以前の生存する権利さえ守られていない
・ような状況で、それに比べれば羽曳野市の福祉サービスは充実していると思う。今後も地域の構成員
として、福祉サービスの充実
に努めたいと考えている。
- 多くの利用者に喜んでもらえるような事業に発展して貰えたら。また、羽曳野市だけで無料で行っ保健
福祉サービスを考えてほしい。
- 2月から綾南、森福祉センターのカジュアルリハビリ教室にて体力低下予防の体操を教えてもらっ
ている。今後要介護にならない為、とてもよいと思う。このサービスが市民に広く知られるといい
と思う。

2. インタビュー調査

<目的・方法>

1) 目的

高齢者のセルフ・ネグレクトおよび孤立死を防ぐための地域見守り組織のありかたについて検討を行うために、見守り組織メンバーとなっている地域住民と見守り組織を支援してきた専門職へのインタビューデータを基にし、質的帰納的分析を行った。

2) 方法

(1) 調査対象者と方法

本研究のデザインは質的帰納的研究である。

調査対象者は、了解の得られた4地区で見守り組織メンバーとなっている地域住民9人と見守り組織づくりを支援してきた地域包括支援センター等の専門職11人である(表1)。

表 1-1 羽曳野市におけるインタビュー対象者の概要

[見守り組織の地域住民]				
面接状況	事例	性別	年代	地域での役職
グループ面接 1	H1	男性	70代	区長
グループ面接 1	H2	女性	60代	民生・児童委員
グループ面接 2	H3	男性	50代	区長
グループ面接 2	H4	男性	60代	民生・児童委員
グループ面接 2	H5	男性	60代	民生・児童委員
グループ面接 3	H6	男性	70代	区長
グループ面接 3	H7	女性	60代	民生・児童委員
グループ面接 4	H8	男性	70代	民生・児童委員
グループ面接 4	H9	女性	60代	民生・児童委員
[地域包括支援センター職員]				
面接状況	事例	性別	年代	職業
個人面接 1	H10	女性	40代	保健師
グループ面接 1	H11	男性	30代	社会福祉士
グループ面接 1	H12	男性	30代	介護福祉士
グループ面接 1	H13	女性	20代	社会福祉士
グループ面接 1	H14	女性	50代	社会福祉士

グループ面接 1	H15	男性	30代	社会福祉士
グループ面接 1	H16	男性	30代	社会福祉士
グループ面接 1	H17	女性	50代	社会福祉士
グループ面接 1	H18	男性	30代	社会福祉士
グループ面接 1	H19	男性	30代	介護福祉士
グループ面接 1	H20	女性	20代	社会福祉士主事

羽曳野市は2008年3月にインタビューガイドを用いた半構成的面接を研究者らが実施した。面接時間は約60分程度である。面接の形態は、個別インタビュー及びグループインタビューであった。見守り組織の地域住民に面接を行う場合は、地域包括支援センター等の職員に同席してもらい、発言しやすい環境を整えた。

半構成面接の内容は、「①調査対象者の知っている事例」と「②見守り支援に関する内容」である。面接項目は見守り組織の地域住民・専門職ともに同じ内容で行なった。

前者の「①調査対象者の知っている事例」については、在宅高齢者における孤独死の事例、見守りが難しい事例、見守りの必要性の有無が把握できない事例、孤立している住民をうまく援助できた事例およびできなかった事例について、できるだけ具体的に把握できるようにたずねた。

後者の「②見守り支援に関する内容」については、当該地区の見守りネットワーク活動で困っていること、当該地区見守りネットワークが行っている活動や行政・専門職との連携状況、当該地区見守りネットワークが果たすことのできる役割と今後の課題、高齢者の孤立や孤立死防止のために行政や専門職に求める役割、見守り組織をつくるまでの今までの経緯および地域包括支援センターや住民の働きかけや役割などについて、把握することを意図して面接を実施した。

以上の半構成面接の内容について、調査対象者の同意を得てICレコーダー等に録音し、逐語録を作成した。なお、すべての対象者から録音の同意を得ることができた。

2) 分析

逐語録から高齢者の孤立死、見守り支援のありかたや組織づくりに関連すると思われる内容を意味毎にくぎり、可能な限り、対象者の表現を活用し、コードをつけた。さらに、コードをもとに、羽曳野市と泉南市との特性を比較しながら、カテゴリを作成し、さらにカテゴリをまとめて、テーマとした。これらの分析過程では、研究グループ内で数回にわたり、討議を行い、コード、カテゴリ、テーマ等の表現と分析の適切性を確保するように努めた。

3) 倫理的配慮

調査対象者には書面と口頭で本研究の趣旨、目的と方法を説明し、対象者から文書にて同意を得た。また、調査協力は自由意思に基づくものであり、いつでも中止可能であること、研究目的以外では得られたデータを使用しないことを説明した。なお、本研究は、甲南女子大学看護リハビリテーション学部研究倫理委員会から承認をうけて実施している。

<結果>

1) 見守り組織の地域住民へのインタビューの質的分析結果

地域住民へのインタビューから得られた質的分析について、テーマとカテゴリを表2～4に示す。

表2-1 見守り住民に対するインタビューから得られた質的分析の概要-1

テーマ	カテゴリ
孤立死のとらえかた	<p>元気な人が独りで急に亡くなることもある。</p> <p>自分の地域では孤立死は起こらない。</p> <p>見守っていても孤立死を完全に防ぐことはできない。</p> <p>見守っていても独りで急に亡くなることもある。</p>
孤立死発見のプロセス	<p>新聞がたまっていて孤立死に気づいた。</p> <p>電気がついたままだったので孤立死に気づいた。</p> <p>雨戸を閉めていなかったのが孤立死に気づいた。</p> <p>見守りのために訪問したら独りで亡くなっていた。</p> <p>孤立死をした高齢者は死後、家族と連絡がとりにくかった。</p> <p>予め連絡先を把握していたので孤立死後も家族に連絡をとりやすかった。</p>
見守り対象となる高齢者	<p>人に頼ろうとしない高齢者</p> <p>人とのつながりを拒否する高齢者</p> <p>人との交流が少ない独居の男性高齢者</p> <p>地域とのつながりが少ない集合住宅に住む高齢者</p> <p>近所づきあいから孤立している高齢者</p> <p>近所に知らせずに家を空ける高齢者</p> <p>個人情報保護の理解が異なり自分の情報を話さない高齢者</p> <p>家族関係の問題が多い高齢者</p> <p>認知機能低下による問題行動がある高齢者</p> <p>火の不始末をする高齢者</p> <p>食事をしていない高齢者</p>

表2-2 見守り住民に対する面接から得られた質的分析の概要-2

テーマ	カテゴリ
見守りのためのテクニック	<p>対象者のニーズに応える 見守りの訪問より、サロンを勧める方がとっかかりやすい 対象者には見守りからかかわり始める 既存のサービスを使って、安否確認をする 見守りを行なうための対象者への働きかけ 対象者の情報を把握しておく 見守り対象者は独居と特定所帯 見守り頻度は月2回 見守り台帳や名簿を作成し、集計する 自発的に情報収集をする 情報源を明らかにしない</p>
見守りのための組織作り	<p>既存組織があり、見守りに活用しやすい 行政と連携をとる必要がある 住民組織間で情報を共有する 住民に地域の情報を伝える 地域包括支援センターは連携しやすい 専門職別に活動形態が異なる 民生委員の職務は見守り 民生委員の職務に協力してもらう 民生委員の職務内容の周知が必要 見守りをシステム化する リーダーがいれば、地域はまとまる 地域の絆の強さ 近隣住民の見守りは孤立死予防に役立つ 見守りで高齢者に役割を持たせる 近隣住民や子どもが見守るべき</p>
見守り困難な点	<p>個人情報が入手できない 区長との情報共有が難しい 支援センターから情報提供されない 集合住宅は情報把握が困難 女性は男性の見守りに抵抗がある 独自の対策をしたいが困難 やる気のある担い手がいらない 民生委員になりたがる人がいない 町会に入らない住民が多く、活動低下している</p>

(1) 孤立死のとらえかた

テーマ「孤立死のとらえかた」に関するカテゴリとコードの一覧については、表3に示す。両地域に共通するカテゴリとして「元気な人が独りで急に亡くなることもある」がみられた。羽曳野市に特徴的にみられたカテゴリとしては「自分の地域では孤立死は起こらない」「見守っていても孤立死を完全に防ぐことはできない」「見守っていても急に亡くなることもある」が挙げられた。

表3 テーマ「孤立死のとらえかた」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
孤立死の とらえかた	元気な人が独りで急に亡くなることもある。 元気な人がトイレでこてっと死ぬ。
	自分の地域では孤立死は起こらない。 孤立死は今までもなくこれからもまずない。 親戚が周囲に多く、孤立死は起こりえない。 私の知っている限り、孤立死はない。
	見守っていても独りで急に亡くなることもある。 一緒についているわけではないので孤立死は防止できない。 孤立死を防ぐことは不可能なのでいかに早く発見するかが大切である。 孤立死ゼロは絶対に難しい。
	見守っていても孤立死を完全に防ぐことはできない。 気をつけなあかんと思っているにもかかわらずコテっと思ったらわからない。 周りに親戚がいてもどうすることもできなかった。 見守っていたのに独りで亡くなっているのを発見し、何のためかなど思った。

(2) 孤立死発見のプロセス

テーマ「孤立死発見のプロセス」に関するカテゴリとコードの一覧については、表4に示す。

表4 テーマ「孤立死発見のプロセス」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
孤立死発見の プロセス	新聞がたまっていて孤立死に気づいた。 家の前に新聞がちょっとたまっていて孤独死に気がついた。
	電気がついたままだったので孤立死に気づいた。 朝も夜も電気がずっとつきっぱなし。 あくる朝まで電気がこうこうとついていて家の裏の人が知らせてくれた。 電気がつきっぱなしで「どうも様子がおかしい」と近所の人がいつてきた。
	雨戸を閉めていなかったで孤立死に気づいた。 雨戸も閉めていないのでおかしいと話合い、家に入ったら亡くなっていた。
	見守りのために訪問したら独りで亡くなっていた。 見守りをしているときにたまたま亡くなっているのを発見した。 福祉委員の言葉が気になって訪問したら玄関先で倒れていた。
	孤立死をした高齢者は死後、家族と連絡がとりにくかった。 死後、家族になかなか連絡がとれなかった孤独死の高齢者がいた。
	予め連絡先を把握していたので孤立死後も家族に連絡をとりやすかった。 「あんしんシステム」で連絡先が記入されていたので家族に連絡がとれた。

(3) 見守り対象となる高齢者

テーマ「見守り対象となる高齢者」に関するカテゴリとコードの一覧については、表5に示す。

表5-1 テーマ「見守り対象となる高齢者」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守り対象と なる高齢者	人に頼ろうとしない高齢者 プライドがあるので下手なことが言えず、かかわりが難しい。 ご老人を扱うのは難しい。 自分は元気だと思っている高齢者 家族が高齢者をしっかりしていると思いきみ、支援を断る。
	人とのつながりを拒否する高齢者 家族や他人とのつながりを拒否する奇人変人が孤立死しやすい。 近所の手前があるので見守りにきてほしくないという家族がいる。
	人との交流が少ない独居の男性高齢者 男の人の独居には身内が来る回数が少ない。 お酒が好きな男性の独居高齢者は生活をちゃんとできない。

表5-2 テーマ「見守り対象となる高齢者」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守り対象と なる高齢者	<p>地域とのつながりが少ない集合住宅に住む高齢者</p> <p>府営住宅の一人暮らしは把握が難しい。 独居でマンションに入居する高齢者。 集合住宅のドアから中がわからない。</p>
	<p>近所づきあいから孤立している高齢者</p> <p>町会費も払わなくて周囲の人と仲が悪い。</p>
	<p>近所に知らせずに家を空ける高齢者</p> <p>ちょっと連絡してくれたら心配ないんやけどな。 今の人はご近所に「ちょっと行ってきますねん」というのがない。 民生委員に告げずに家をあけるケースが怖い。</p>
	<p>個人情報保護の理解が異なり自分の情報を話さない高齢者</p> <p>民生委員に自分のことを話したらない。</p>
	<p>家族関係の問題が多い高齢者</p> <p>ケンカ別れしているとか、家庭内でもめているのは難しい。 愛人関係で高齢者の夫婦間がもめている。 息子にやられたとか虐待の問題がある時は難しい。 家族に見放されている。</p>
	<p>認知機能低下による問題行動がある高齢者</p> <p>住所もわからないのに遠い所に一人で行ってしまった。 認知症の方が朝方にピンポンならして困る。 食事を2つも買ってしまう認知機能が低下している高齢者。 食事をしているのに食べてないという。 見守り対象者が「1万円かして」と毎週やってくる。 認知機能が低下していてお金がないという。</p>
	<p>火の不始末をす高齢者</p> <p>火事を出してしまいたいような高齢者 お酒が好きでぼやをだす高齢者は気になる。</p>
	<p>食事をしていない高齢者</p> <p>食べていない人は気になる。</p>

(4) 見守りのためのテクニック

表6-1 テーマ「見守りのためのテクニック」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのための テクニック	<p>対象者のニーズに応える</p> <p>検死時は、2日間拘束された。検死につきあう。 近くにいる病院はないかと相談をうけていた。 訪問していたら奥で苦しがっていたので、救急車を呼んだ。</p>
	<p>見守りの訪問より、サロンを勧める方がとっかかりやすい</p> <p>会食会では楽しんで帰ってもらおう。 会食会の目的は、ふれあいと引きこもり防止。 訪問よりもサロンに力を注ぐべき。(家には踏みこまないように)</p>
	<p>対象者には見守りからかかわり始める</p> <p>基本的に対象者には見守りから入る。</p>
	<p>既存のサービスを使って、安否確認をする</p> <p>独居者へあんしんシステムの周知。 指を切ってあんしんシステム活用。 あんしんシステムでつながりを持ってもらう。 あんしんシステムで正確な実態把握ができる。 ヤクルト1週間分まとめて入れられることがあるので問題。 石油配達の人が倒れているのをみて、民生委員に伝えた。 孤立死防止のために、新聞・ヤクルトを取っているかチェック。</p>
	<p>見守りを行うための対象者への働きかけ</p> <p>カギの置き場所を決めておく。 近所に安否を知らせるためのツール。 孤立死予防のための声のかけ方。「世話になる」ことを自覚する。 結果的に地域の世話になることを自覚してもらう。 リスクの周知。冬場のトイレで冷やさないう周知。 近隣住民に対象者から異常を周知させる。</p>
	<p>対象者の情報を把握しておく</p> <p>緊急時に対象者の関係者がすぐにわかるようにしておく。 かかりつけ医の情報を把握しておく。 災害の時に近所に安否や身内を知らせるツールが必要。</p>
	<p>見守り対象者は独居と特定所帯</p> <p>見守り対象者は100名。 見守り基準、独居。 特定所帯を見守り基準に入れる。</p>

表6-2 テーマ「見守りのためのテクニック」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのための テクニック	見守り頻度は月2回 見守り基準は、月2回。 訪問頻度は、月2回。 見守り頻度を経験により、決める。
	見守り台帳や名簿を作成し、集計する 見守り台帳付け、町会毎に集計する。 見守り基準、ウォッチング集計表をつくる。 見守り対象者の介護度や安心システムの有無の親族名簿を作成している。
	自発的な情報収集をし情報を共有する。 出かけて自発的に情報収集する。 見守りを民生委員の義務化とする。
	情報源を明らかにしない 情報の出所を明らかにしない。地域福祉の調査として入る。

(5) 見守りのための組織作り

テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリとコードの一覧については、表7に示す。

表7-1 テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのための 組織作り	既存組織があり、見守りに活用しやすい 専門職の話の聞いたり、アドバイスをもらえることが会議のメリット。 雅びのメリット。他職が即、会話できる。 雅びのメリット。横の連携がとれる。 雅びのネットワークで無駄なことが整理された。 雅びにおける専門職の役割は、専門職の意見が聞けること。
	行政と連携をとる必要がある 何かあった時のみ、役所と連携。 行政の中で横の連携を密にして欲しい。 行政への要望。情報共有し、うちは知らんと言わないで欲しい。 行政からの説明が不十分。

表7-2 テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのための 組織作り	<p>住民組織間で情報を共有する</p> <p>何かあったら議事録を回覧版で回す。 町会と民生委員との連携がとれてきた。 各町会の連携を密にしたい。 (見守り)活動において、町会の理解が重要。 町会内での連携(顔見知りの人は、声をかけてくる)。 区長としての町会での取り組み。 孤立死発生時、区長との連携。 民生だけでは何もできず、区長に出てきてもらうことは必要。 民生委員と区長との連携の方法。話し合いをして垣根をとる。 対象者との関わり方について話し合いによる情報交換をする。 見守りケースの周知をし、情報を共有する。 区長会に民生委員も出てきてもらい、お互いに相互理解できるようにしたい。 区長から地図をもらって、色分けをする。 自治体と民生委員との情報共有している。 自治会の知らない情報は、民生委員も知らない。</p>
	<p>住民に地域の情報を伝える</p> <p>雅びの周知。(広報を年2回配布) 独自の広報誌を作成している。</p>
	<p>地域包括支援センターは連携しやすい</p> <p>夫の入院後妻がパニック状態になり、食事も食べていなかったため、包括にきてもらった。</p>
	<p>専門職別に活動形態が異なる</p> <p>薬剤師会は、校区にまたがって広く活動。 接骨医は意識高いが、会議には来ない。</p>
	<p>民生委員の職務は見守り</p> <p>見守りは雅びでなく、民生委員の活動。 地域見守り隊を作り、民生委員の見守りを代行している地域もある。</p>

表7-3 テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのための 組織作り	<p>民生委員の職務に協力してもらう 家族が民生委員との連携をとって欲しい。 民生委員のサブが欲しい。 住民に役割をもたせ、民生委員をサポートしてもらう。</p>
	<p>民生委員の職務内容の周知が必要 民生委員（区長）の業務範囲を理解してもらう。 ヘルパーと民生委員の役割が混同されている。 守秘義務があるため民生委員の役割は、協力員で補えない。</p>
	<p>見守りをシステム化する 新しいものを広く深くやっていくことで、呑みこんで、消化して身につく。 見守り内容をシステム化し、全地区を同じレベルに並べてやっていく。 物事を進める時は、まず目標・目的を明確にし、プロセスを踏まえて行う。</p>
	<p>リーダーがいれば、地域はまとまる リーダーとなる人がいることで、地域はまとまる。</p>
	<p>地域の絆の強さ 町会の集まりに全て来てくれる。 何かあれば、他の役の人が助けてくれる。 人口が少なくても、何でもやっていける地域。 地域がまとまっている。</p>
	<p>近隣住民の見守りは孤立死予防に役立つ 孤立死予防のための民生委員と近所住民の見守り。 地域で住民間の見守りが役に立つ。 この頃おじいちゃん出てきてへんがどうかなと近所の人が言ってる。</p>
	<p>見守りで高齢者に役割を持たせる 住民同志に見守りを依頼し、高齢者に役割を持たせる。</p>
	<p>近隣住民や子どもが見守るべき 役所よりも、近所の住民が見守るべき。 子どもが見守るべき。</p>

(6) 見守り困難な点

テーマ「見守り困難な点」に関するカテゴリとコードの一覧については、表8に示す。

表8 テーマ「見守り困難な点」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守り困難な点	個人情報が入手できない 守秘義務の壁があり、情報が入手できない。 どこまで話してもらえているのかわからない。 どこにだれが住んでいるかの情報が欲しい。
	区長との情報共有が難しい 自治会と情報交換できない。 区長と民生委員の顔合わせの機会が減っている。 名簿は民生委員が個人で作る。 任期短く、連携ができない区長。 区長が動かないので、住民が町会のイベントに参加できない。
	支援センターから情報提供されない 入所後、支援センターからの連絡はない。
	集合住宅は情報把握が困難 集合住宅のドアから中がわからない。
	女性は男性の見守りに抵抗がある 女性が男性の高齢者の見守りに行くのは抵抗がある。
	独自の対策をしたいが困難 他でできないことをしたいが、難しい。 地域福祉をまともに進むほど、賠償、訴訟などの暗礁にぶつかる。 独居老人のマーキングをしたいが、難しい。
	やる気のある担い手がいない 次の世代を育成することから課題。 他の団体の中には、無関心な人もいる。
	民生委員になりたがる人がいない 民生委員の欠員がいる。 民生委員になりたがる人がいない。
	町会に入らない住民が多く、活動低下している 地域組織の脆弱化により活動が低下。 町会の催しがやりにくくなっている現状。 町会に入らない住民が多い。 兼務で組織を動かすことは困難。

2) 見守り組織づくりを支援してきた専門職へのインタビューの質的分析結果

羽曳野市の見守り組織づくりを支援してきた専門職へのインタビューから得られた質的分析についてのテーマとカテゴリを表9に示す。

表9 地域包括支援センター等の職員に対するインタビューから得られた質的分析の概要

テーマ	カテゴリ
見守りメンバーのバックグラウンド	民生委員はそれぞれ見守りのノウハウを持っている 住民に自分で率先して動く人がいて見守ることができる 民生委員同士で協力している
見守り対象となる高齢者	家族や近所とつながりがない高齢者 介入を拒否する高齢者 ごみ屋敷に住む高齢者 家族や近所が施設や病院を希望する高齢者 受診拒否する高齢者 生活環境が保てない高齢者 精神症状がある高齢者 認知症がある高齢者
高齢者への支援	頻回に関わり信頼関係を作る 住民や見守りメンバーから情報をもらい、支援につなげる 本人を受け止めて信頼関係を作る 多くの職種が関わって支援する 関わりが深まることによってサービス導入につなげる 家族との関わり次第でうまくいくこともある
組織・地域への支援	メンバーと顔をつなぎ、連絡をもらえる関係を作っておく 見守り組織が出来上がっている 組織化や社会資源の開発が重要である 個別対応にメンバーが動くように関わる
支援の困難な点	情報把握後どうするのか難しさがある 支援する機関に高齢者はアクセスしにくい 高齢者が支援の必要性を感じず介入できない 家族と共通認識が持てないとうまくいかない 独居である限り孤立死予防は難しい

(1) 見守りメンバーのバックグラウンド

テーマ「見守りメンバーのバックグラウンド」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 10 に示す。

表 10 テーマ「見守りメンバーのバックグラウンド」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りメンバー のバックグラ ウンド	民生委員の見守りのノウハウがある 民生委員の長年のノウハウによる見守り基準がある 緩やかな見守りとして、高齢者が自分で動けるうちは外で見かけたら声をかける 見守りのインターバルを決めている 外からの見守り項目として、郵便、洗濯物、照明の有無、雨戸、ごみ出し状況、花の水やりなどがある
	自分で率先して動く人がいて見守ることができる 自分で弱者見守りのたたき台を作り、他の方に周知伝達と意向の調整を図る まず自分が率先して動いて何かの形を打ち出すのを労を惜しまずやってくれる 福祉に対する熱意のある人がいると見守りも進む 高齢者に人間らしい暮らしを提供できたのは民生委員の積み上げである 見守りのスパンは決まっていないが気になる人がいたら民生委員の手の空いている人が行く 民生委員には自分たちの地域は自分たちが守ってきたという自負心がある
	民生委員同士で協力している 民生委員同士でスクラムを組んでいる

(2) 見守り対象となる高齢者

テーマ「見守り対象となる高齢者」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 11 に示す。

表 11.見守り対象となる高齢者

テーマ	カテゴリ コード
見守り対象となる 高齢者	家族や近所とつながりのない高齢者 近所の人とつながりを持たず孤立し状況がわからない 緊急時の連絡先が不明である
	介入を拒否する高齢者 「誰の世話にもなりたくない、入ってきてくれるな」という
	ごみ屋敷に住む高齢者 ごみ屋敷状態で転倒しやすい環境、本人の身体状態も廃用で動かなくなった
	家族や近所が施設や病院を希望する高齢者 近所や家族も施設か病院で診てもらうのが希望だったのが関わりのきっかけであった
	受診拒否する高齢者 医師への信頼が低く受診しない
	生活環境が保てない高齢者 動けず食事、保清もできず困っていた 転倒から腰痛、失禁、起き上がり困難で相談を受けた 失禁、便も新聞紙にくるんで放置していた 認知症機能が下がり服装も入浴もトイレもひどい人についての連絡が入った
	精神症状がある高齢者 昼夜逆転、妄想、幻聴、攻撃性があり認知症も進んだ お酒ばかりを飲んでいる
	認知症がある高齢者 認知症が進んで仕事ができなくなった 認知機能低下が進み家から出ている姿を見かけなくなった 認知症が進み会食会に参加しなくなり閉じこもり、被害妄想的になった
	介護認定の意見書を書いてもらうという行為が理解できない